

第13回産学交流セミナー

「IT活用によるイノベーション」をテーマに6月15日、大阪商業大学（東大阪市御厨栄町4-1-10）にて第13回産学交流セミナーが開催された。大阪商業大学（谷岡一郎学長）は日本政策金融公庫東大阪支店と共催で、地域の企業と連携を深め、地域社会への情報発信を目的として産学交流セミナーを開催している。



奥山淑英社長



森嶋勲社長

講演1部のテーマは効果は単純な評価「IT活用による適正は難しいが、担当在庫への取組み」。経アイテム数が32%増産が推進する中アップ、日次の欠小企業、IT経営百選」品数52%ダウンに平成17年選出のサンと、顕著な効果もコーインダストリー株上がった。今式会社代表取締役社後ともITの推進長・奥山淑英さんが、に邁進したい。増殖する15万アイテム 第2部のテーマの商品群をITでクツは「IT化によるキングする現状を熟く少量・多品種・短納期生産への転換」。

同社は社員380人、年商248億円の「百選」に平成18年事業規模。ネジの専門選出の理化工業株問屋であり、現在75万式会社代表取締役アイテムの商品は近い社長・森嶋勲さん将来100万アイテムが、自社製品を持つに届く勢いだ。500たないサポートテイ0社の顧客から1日のング・インダストあらゆる時間帯にオーリーとしての存在データが入る。ある1社価値を具体的にでは1日に130回の語った。

オーダー実績があり、同社は社員75作業の前倒しと効率的人、熱処理加工。な梱包のために、小箱表面処理加工・塗容量を積算し段ボール装加工をメインと箱1個分になると出荷した八尾市の地場産業ことは大切だが、何の指示する方式を採用した。自社製品を持たない、受託加工の企業形ることが大事だ。

大阪商業大学と日本政策金融公庫東大阪支店が共催

アナログとデジタルの両立が肝心だ。ITを活かす。アナログとデジタルの両立が肝心だ。ITを活かす。アナログとデジタルの両立が肝心だ。ITを活かす。

に育ててもらった会社といえる。バブル全盛期、バブル崩壊、失われた10年・20年、となくか凌いで来たが、2001年に止むにや

まれば「少量・多品種・短納期」の仕事積極的に受注開始した。顧客の拡大・加工品目の増加・頻繁な納期変更等々、状況の激変に現場は戸惑った。手書きの伝票・台帳・作業指示書ではどうにも間に合わず、顧客850社・19000点パーツのIT化作業を開始した。加工品登録・作業指示書・検査成績書等々範囲は多岐にわたる。ただし全てをIT化ではなく、加工順序の決定はカード形式でアナログ方式を併用している。

（小山秀人）

注傾向を分析して最終縮切り処理時間を設定した。需要予測は当たり外れではなく、外れる要因を探す足掛かりとして「需要予測」を使用している。アイテム数の増加により在庫管理が複雑化し、デッドストックと過剰在庫の恐怖がつきまとう。問題はリードタイムと過去の受注から、最適な発注点を算出する技術を導入して解消に結びつけた。IT導入